



子ども理解のための親育ち支援事例研修のすすめ

日々の保育の中で、気になる子どもはいませんか？一人で抱え込んでいませんか？子どもやその保護者、そして保育者自身のためにも、園全体で共通理解し、チームで支援をしていくことが大切です。その方法の一つ、事例研修をおすすめします。

P48参照

事例研修をする前に・・・

- ＜気になる子どもについて＞
「どんな姿が気になる？」「なぜ、気になる？」等について自分に問い返してみましよう。
- ＜家庭について＞
事実なのか、想像なのか、家庭についての情報を整理してみましよう。

これらのことを可視化することで、親子についての捉え方が整理され、明確になってきます。その際、「親育ち支援実践シート」を活用してみてください。

親育ち支援実践シート	
利用村名()園名()	記入者()
性別() 月() 日()	担任()
園内 園外 園児() 職員クラス() 歳() 月() 男・女	
実施日()月()日()	()歳児()月より
園	家庭
保育者の関わりで考えられること	保護者の反応や子どもの関わりで考えられること
園	家庭
子どもに対する支援 (・担任 ○担任以外 ●園外関係者の連携)	保護者に対する支援 (・担任 ○担任以外 ●園外関係者の連携)

事例研修をすることのよさ

- 多様な考えに触れ、新たな気づきを促すことができます。
- 子ども理解が進み、自分自身の保育の見直しができます。
- 園で共通理解が進み、役割分担をすることで、支援が有効になります。
- 「一人じゃない」という気持ちは、保育をしていく上で、大きな支えになります。

事例研修を実施した保育者の感想より

- ◆対応や言葉かけについて考えることや他の保育者の意見を聞くことは、日々の保育を振り返り、今後の親子の支援につながるヒントとなった。
- ◆大人からすると困りごとでも、子どもにとっては、大事な経験をしているかもしれない。子どもの姿を肯定的に捉えることの大切さに気付かされた。
- ◆見方や捉え方が違っていると、支援の方向性も違ってくる。職員全体で話し合うことで、多面的な捉えからそれぞれの立場に応じた支援を考えていくことができた。

お知らせ

親育ち支援地域別交流会

県内6つの地域で開催している地域別交流会では、実践シートを活用して事例研修を実施し、多くの学びを得ています。詳しくは、幼保支援課ホームページをご覧ください。

～幼保支援課HPより～